

UCO「大阪市をウォッチする」収録 22～26 回

20 日午後、西九条のスタジオで UCO（大阪コミュニティ通信社）ネットラジオ収録。11 月 10 日に 17～21 回分をレポートしたが、その続き 22～26 回分のポイントを紹介。主に 11 月から 12 月中旬までの大阪市と大阪市会の動きである。

22 回は夢洲 IR カジノの環境影響評価準備書「説明会」について。11 月 11 日に港区のアリーナで開催された「説明会」に京都の重要な会議を中座して駆けつけたが、主催者で事業者である大阪 IR 株式会社から一人も参加していないことが判明。会場は騒然となり、多くの参加者が退席した。私も事業者がいない「説明会」は認められないと発言したが、明確な回答もなく、迷いながらも退席した。2 日後に大阪市環境局に電話して事態を伝え、大阪市環境影響評価条例に反するのではないかと追及したが、条例には事業者の参加を規定していないなどと。腹が立つので、準備書への意見書、市会への陳情書、公述申入書に問題点を指摘した。IR カジノ会社の実態も浮き彫りになった。

23 回は大阪市会への 4 通の陳情書提出、都市経済委員会と建設港湾委員会の傍聴記。私の陳情書のうち、22 回で話した IR カジノ環境影響評価準備書「説明会」と条例見直し、万博の規模縮小と万博工事・開催中の IR 工事中止については、維新の反対により不採択になった。陳情書の審査と質疑を通じて、大阪市や維新など各会派の姿勢が明らかになった。陳情書が委員会の質疑を方向づけるなどの「効果」もあることを再確認した。リアルで傍聴すると、貴重な資料も入手できる。

24 回は 12 月 4 日から始まった夢洲 IR 用地の液状化対策工事である。住民訴訟 5 日の期日でも問題になったが、IR カジノ事業者に土地が引き渡されていないのに、ゼネコンが工事を実施する。この工事は大阪市が「主体」であり、そのためアセスの対象にもならないという。液状化対策工事は来夏から予定される IR 工事と一体のものであり、両者を区分できないはずだ。IR スケジュールによると、万博工事と万博開催にもろに重なる。今でも渋滞しているのに、IR 工事により深刻な問題が生じるであろう。

25 回は 11 月 30 日に万博開幕予定まで 500 日と前売りチケット販売について。大阪市役所正面玄関に「ミャクミャク」なるものが寝そべっている。疲れているのだろう。「くるぞ万博」というチラシの裏に各種チケットの案内。チケットを買うのが大変だ。ネットに不慣れなお年寄りには無理だ。チケットを買っても、行く日などを再び予約してはならない。チケットが売れないと、万博運営費が賄えず、大阪市の負担が膨らむ。

26 回は 12 月 19 日に公表された万博経費の全体像。とにかく大規模イベント特有のコスト上昇と地元負担膨張の構図だ。国と大阪府市が公表した万博負担額は、今後さらに増えるという。夢洲での万博は IR カジノ誘致と一体のものだ。万博が開催できるかどうかよりも、こんな夢洲万博を開催していいのかが問われているのではないかと、

半年間にわたり、「大阪市をウォッチ」してきたが、ぜひ来年も続けていきたい。

(2023 年 12 月 22 日)